

# 平成19年度 第4回JBICI / BBL 「平和構築と開発援助」

平成19年8月10日  
国際協力銀行 開発金融研究所  
工藤正樹(専門調査員・平和構築担当)

1

## 発表の骨子

1. 平和構築(支援)は何を目指しているのか
2. 平和構築支援は、通常の開発援助と何が異なるのか
3. 平和構築支援において円借款は有効か

1. 概論

2. 開発

3. 円借款

2

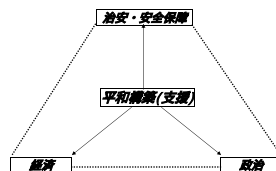
## 1. 平和構築が目指すもの(1) 用語の定義

### 平和構築

- 国際連合 (UN)・・・Post-conflict中心  
「平和の基盤を再生し、単なる戦争のない状態以上のもとして  
平和の基盤を構築するための手段を提供する諸活動」(UN 2000: para.13)
  - 開発援助委員会 (DAC)・・・「予防」も含む  
「紛争になりつつある状況、紛争中の状況、紛争後の状況などにおいて、武力紛争を予防し恒久・持続的な  
平和を達成するという明確な目的のために行われる諸活動を包含するもの」(DAC 2006: p.1)
- 1992年 「平和への課題」  
(予防外交 / 平和維持 / 平和創造 / 紛争後の平和構築)
  - 2000年 「ブラヒミ報告書」  
(紛争予防と平和創造・平和維持・平和構築 = PO)
  - 2004年 「国連ハイレベル・パネル報告書」  
(紛争後の平和構築 / PBC設置提案)
  - 2006年 国連平和構築委員会

## 1. 平和構築が目指すもの(2) ～「対処」だけでなく「体質改善」～

- (1) 目的:紛争(再発)予防のための社会・制度構築
- (2) 紛争再発リスク(UN2005, Collier 2003, 世銀)  
・・・約5割(5年以内) / 44%(5年以内) / 40%(10年以内)?



- (3) (政策・理念) 政治・経済・治安などの各分野へ包括的支援
- (4) (実際の支援) 被支援国ごとに「青写真」

## コラム: OECD/DACと平和構築



## 2. 通常の開発援助との相違点(1) なぜ、平和構築支援に取り組むのか？

### 国連ミレニアム開発目標(MDGs)の達成に不可欠

国連ミレニアム開発目標(MDGs)の達成に最も遠いと思われる34の開発途上国のうち、22カ国が、紛争継続中、或いは紛争後の不安定な状況にある。また、紛争による災禍が様々な社会開発指標を悪化させており、紛争から立ち直ったばかりの国のうち、40% (アフリカのみに注目すれば60%)が、再び紛争状態に陥っている。

(UNDP2005, 外務省HP)

## 2. 通常の開発援助との相違点(2)

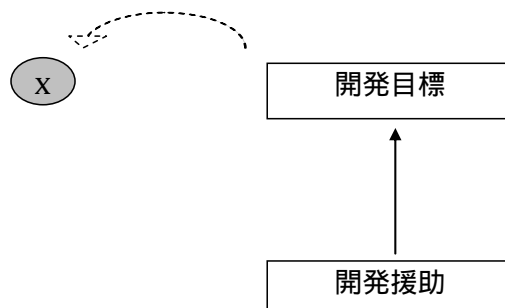
### 開発 +

- (1) 開発援助は開発援助( 資料1「支援手段」)
- (2) なんらかの形で紛争と関係する地域への支援
- (3) 通常の見援とは若干異なる配慮が必要

紛争配慮アプローチ(+ / -)

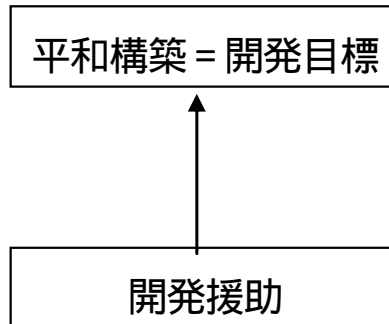
## 2. 通常の開発援助との相違点(3)

(通常の見援援助)



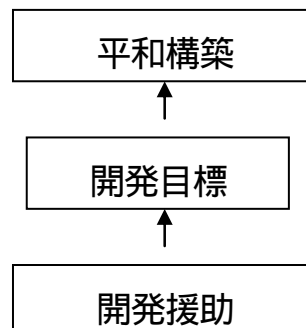
## 2. 通常の開発援助との相違点(4)

(PB支援1:直接)



## 2. 通常の開発援助との相違点(5)

(PB支援2:間接)



## 2. 通常の開発援助との相違点(6)

### 紛争配慮アプローチ

種類	特徴	例
要因分析	目的：紛争の要因や因果関係を分析 内容：要因分析、アクター分析など 備考：「脆弱性」分析なども、要因分析の一形態と考えられる	CH Model Conflict Vulnerability Analysis [USAID 2001]
課題・ニーズ分析	目的：復興ニーズ・優先課題の把握 内容：いわゆる「ニーズ・アセスメント」 備考：紛争配慮などを含む	Post-Conflict Needs Assessment (PCNA) [UNDP, WB, UNDG 2004].
影響分析	目的：援助のインパクトを分析 内容：正の影響、負の影響の分析 備考：多くの場合、「要因分析」も含む	Peace and Conflict Impact Assessment. Conflict Assessment [DFID 2002]

### コラム：「DO NO HARM」 = 意図せざる「負の影響」に注意

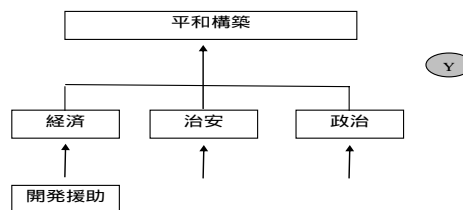
- (1) アフガニスタンでの「ヒヤリ体験」：
  - 「カブール県障害者のための職業訓練センター支援計画」(2004)
- (2) 意図せざる「負」の影響、「万能薬」はなし
- (3) インフラ支援は関係ないか：
  - 「援助関係者は、ほとんどの場合、人が死ぬまで DO NO HARMの重要性に気がつかない」  
(Paffenholz)

### 3. 平和構築支援において円借款は有効か？ (1) 平和構築と開発援助の因果関係

平和構築 = 紛争の再発防止(予防)

- (1) 一般論: 「経済成長 再発リスク軽減」(有意: Collier等)
- (2) 現場 : 個別に検証が必要。

しかし、因果関係が「単線型」であることは稀。



### 3. 平和構築支援において円借款は有効か？ (2) 平和構築と円借款

開発援助 = 正の影響( )、負の影響( )

- (1) 円借款の特徴(長期・低利・大規模)  
実務能力育成、自立支援、面の支援、橋渡し等
- (2) 正の影響( ): 経済分野支援が中心
- (3) 負の影響( ): 面の支援(均てん支援)

## 要点

### 1. 平和構築(支援)は何を目指しているのか。

紛争が再発しない社会・制度の構築

### 2. 平和構築支援と通常の開発援助との相違点。

開発援助 + 紛争配慮

### 3. 円借款は有効か。

複合的因果関係。[+ / -]に着目。面の支援

15

## ありがとうございました。

### < 主要な参考文献 >

- 駒野欽一 (2005) 『私のアフガニスタン - 駐アフガニスタン日本大使の復興支援奮闘記』 明石書店
- 福田幸正・工藤正樹 (2007) 『開発援助からみた平和構築支援: 紛争アセスメント・ツールの類型化を通して』 『開発金融研究所報』 第33号
- 国際協力銀行開発金融研究所 (2003) 『紛争と開発: JBICの役割 (スリランカの開発政策と復興支援)』
- Anderson, Mary B. (1999). *Do No Harm: How Aid Can Support Peace – or War*. Lynne Rienner Publishers (大平剛訳 (2006) 『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』 明石書店)
- Organization for Economic Co-operation and Development/ Development Assistance Committee (OECD/DAC) *Preventing Conflict and Building Peace: A Manual of Issues and Entry Points*.
- Suhrke, Astri, Samset, Ingrid (2007). "What's in a Figure? Estimating Recurrence of Civil War," *International Peacekeeping*. Vol.14, issue.2.
- United Nations (UN) (2005). *In Larger Freedom: towards development, security and human rights for all*. (Report of the Secretary-General)

### < 便利なサイト >

平和構築と日本 (外務省HP): <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/bunya/conflict/index.html>  
JICA関連資料: <http://www.jica.go.jp/global/detail/peace.html>  
平和構築フォーラム: <http://www.peacebuilding.jp/>  
UN Peacebuilding Commission: <http://www.un.org/peace/peacebuilding/>  
OECD/DAC (紛争関連): [http://www.oecd.org/department/0,3355,en\\_2649\\_34567\\_1\\_1\\_1\\_1\\_1,00.html](http://www.oecd.org/department/0,3355,en_2649_34567_1_1_1_1_1,00.html)

16